

知的障害特別支援学校の学校図書館利用における
児童生徒の情報行動とその要因と支援
－生涯学習に公共図書館を利用するための支援－

川島 美奈
広島県立福山北特別支援学校
(学校司書)

三輪 眞木子
放送大学

研究発表の流れ

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 研究の背景 | 5. 方法 |
| 2. 先行研究 | 6. 結果と考察 |
| 3. リサーチクエスチョン | 7. 結論 |
| 4. 研究目的及び意義 | 8. 今後の課題 |

研究の背景

1. 障害者の読書環境についての法整備
2. 特別支援学校図書館の現状
3. 特別支援教育のニーズ
4. 障害者の公共図書館利用の推進

研究の背景

1. 障害者の読書環境についての法整備
⇒**読書バリアフリー法**
2. 特別支援学校図書館の現状
3. 特別支援教育のニーズ
4. 障害者の公共図書館利用の推進

2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.2021.(2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/topics/toshoshitu/youkoso/sishokyouyutoukennshuu.pdf>



環境整備前(2019)の特別支援学校図書館

2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.(2024.5.30撮影)



環境整備後(2024)の特別支援学校図書館

2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.2021.(2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r04/No.19tayori-tosho.pdf>



2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校, 2021. (2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r04/No.19tayori-tosho.pdf>



2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.2021.(2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r04/No.19tayori-tosho.pdf>



広島県立福山北特別支援学校.2024.(2024.6.1取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r05/No.15%20tayori-tosho.pdf>

2. 特別支援学校図書館の現状

では 出会う場

児童生徒の皆さんのこんな姿が素敵です

- 読み聞かせ前・・・**
- 生徒が楽しみにしていました。給食もとても急いで食べていました。
 - 「これから始まるよー」の放送を聴いて、子供たちから早めに掃除をして 図書室に行こうと提案がありました。目標があると、てきぱきよく動きました。
- 読み聞かせ中・・・**
- 普段は長い時間集中して話を聞くのが苦手な生徒が、最後まで聞き入っていました。
 - いつもと違う特別な雰囲気、子供たちもわくわくしているのが伝わってきました。
 - 一緒になって参加させていただきながら絵本が読めたので、すごく楽しそうでした。
- 読み聞かせ後・・・**
- 「また来る？」と聞いてきたり、帰りの会の振り返りで本の読み聞かせが楽しかったと発表したりしていました。



福山平成大学学生による

さまざまな工夫をいただいています

- お話がより楽しめるように・・・
- 大型絵本、参加型の絵本、季節に合った本、紙芝居、ペープサート、エプロンシアター、擬音が多めの本の活用。
- 読み聞かせをより楽しむために・・・
- 手遊びや歌、ハンドベル演奏、ぬいぐるみ、絵カードの活用。



おはなしの会「しゃぼん玉」による読み聞かせ

- 一緒に・・・
- お話を聞くだけではなく歌もあり、児童も参加できる楽しい読み聞かせでした。
 - 一緒にかげ声を言う場面や、質問を投げかけるなどのやり取りを、子供たちはとても楽しんでいました。
 - やさしく話しかけていただき、また手を添えて一緒にしていただき、ありがとうございました。
 - 読んでくれたお姉さんと一緒に活動できてうれしそうでした。

次回は1月23日(火)です



さまざまな工夫をいただいています

2. 特別支援学校図書館の現状

ひょうげん ば
表現の場

広島県立福山北特別支援学校.2021.2023(2024.6.1取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r05/No.14%20tayori-tosho.pdf>
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/topics/toshoshitu/youkoso/sishokyoyutoukennshuu.pdf>



図書に関する作品、図書室ボランティアの表彰式(2023)

2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.2021.(2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-tayori/tayori-tosho/r04/No.19tayori-tosho.pdf>



2. 特別支援学校図書館の現状

広島県立福山北特別支援学校.2021.(2023.12.20取得)
<https://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/fukukitaweb-files/z-gaiyou/kyougikai/r05/r05kyogi03-kaigiroku.pdf>



学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の様子(2023)

2. 特別支援学校図書館の現状

文部科学省.(2020).学校図書館に関する現状の調査
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360318.htm

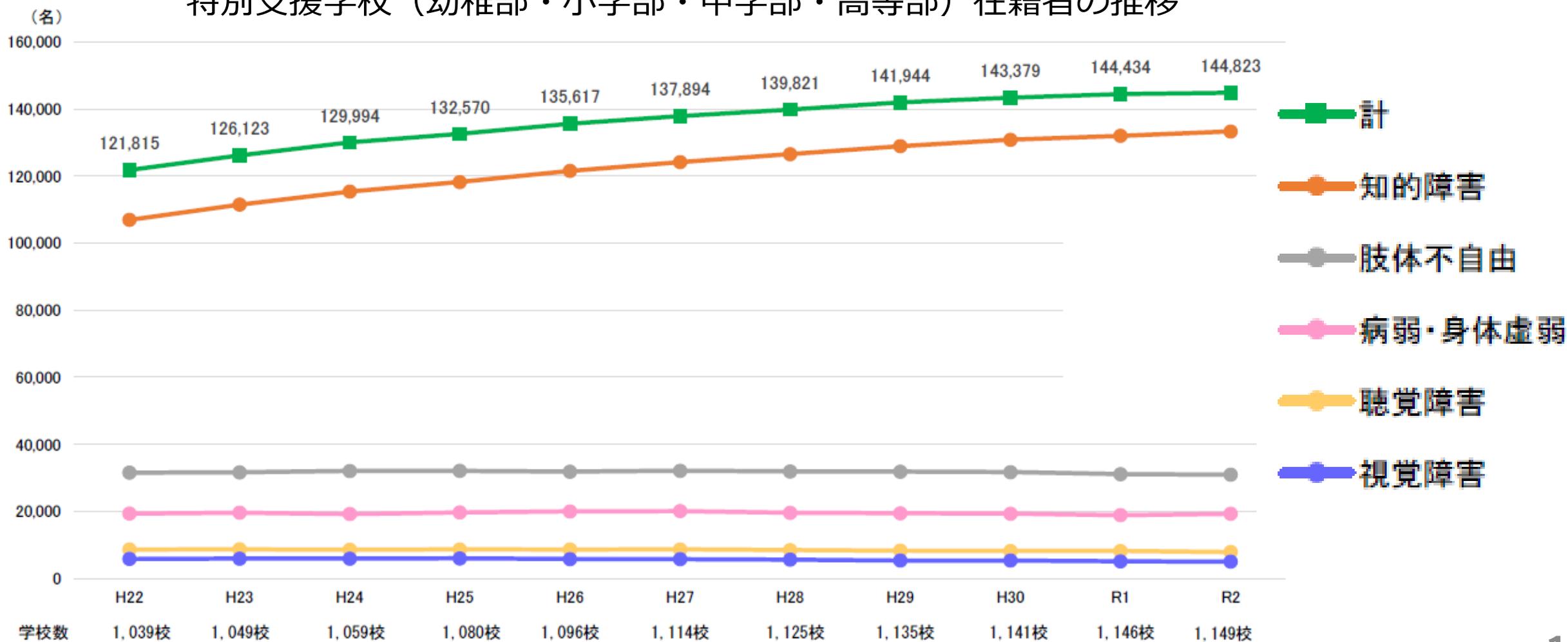
	小学校	特別支援学校 小学部	中学校	特別支援学校 中学部	高等学校	特別支援学校 高等部
1.「学校司書」を配置 している学校の割合	68.8%	9.3%	64.1%	5.5%	63.0%	12.0%
2.学校図書館図書標準を 達成している学校の割合	71.2%	15.5%	61.1%	3.6%	—	—

学校司書：学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（学校図書館法 昭和28年法律第185号）

学校図書館図書標準：公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準（文部科学省 R5.3）

3. 特別支援教育のニーズ

特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部・高等部）在籍者の推移



4. 障害者の公共図書館利用の推進

● 障害者の生涯学習

障害者本人の意識, ニーズの調査(2018)

「**学習機会**が充実されることは, 重要だと思う」 81.1%

「学ぼうとする障害者に対する**社会の理解**がない」 66.3%

「知りたいことを**学ぶための場**や**学習プログラム**が身近にない」 . 67.2%

⇒ ・ 共に学び, 生きる**共生社会**の実現と障害者の**主体的な学び**の重視

・ 個性や得意分野を生かした**社会参加**の実現

・ 想定される実施団体は教育委員会, 公民館・生涯学習センター, (公共)**図書館**等

・ 特別支援学校等教員の教職員研修に障害者の生涯学習を盛り込む

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課.(2022)

4. 障害者の公共図書館利用の推進

● 公共図書館の障害者サービス

・ 国立国会図書館(2010)調査

予算・人員・利用者対応に苦慮し、ニーズの把握ができないため障害者サービスを提供したいが
何をしてよいかわからない館もある

・ 国立国会図書館(2018)調査

指標1を満たしている図書館・・・17.5%

指標2を満たしている図書館・・・9.9%

指標1：①録音資料の貸出実績

②特定録音物等郵便物の発受施設の指定を受けている

③録音資料の郵送貸出サービス又は宅配サービスの実績

指標2：④録音資料又はマルチメディア DAISY の資料製作

⑤対面朗読サービスの実施体制が整っている

公共図書館の障害者サービスが進むために・・・

特別支援学校図書館において
環境整備と活用を進める

○障害者側の図書館利用の経験の積み重ね

○障害者サービスのニーズの把握

先行研究

1. 知的障害者の公共図書館利用の二一ズ 藤澤和子・野口武悟.(2020)
2. 特別支援学校図書館の環境と現状 前田千歳・大伴潔.(2020)
3. 情報センターと電子書籍 須藤崇夫・平久江裕司.(2020). 三輪眞木子.(2014)
4. 学習センターとしての 特別支援学校(知的障害)学校図書館
大貫麻美・野口武悟・熊井戸佳之・二井康文・土井美香子.(2021)

先行研究

1. 知的障害者の公共図書館利用の二一ズ 藤澤和子・野口武悟.(2020)

⇒知的障害者の二一ズに応じた合理的配慮の提供が必要

2. 特別支援学校図書館の環境と現状 前田千歳・大伴潔.(2020)

⇒特別支援学校図書館は十分に整備されていないが、60%を超える児童生徒が図書に関心を持っている

3. 情報センターと電子書籍 須藤崇夫・平久江裕司.(2020). 三輪眞木子.(2014)

⇒担当者の研修の充実が課題

⇒二一ズに応じた多数の電子図書の提供

先行研究

4. 学習センターとしての 特別支援学校(知的障害)学校図書館

大貫麻美・野口武悟・熊井戸佳之・二井康文・土井美香子.(2021)

⇒**学校図書館は、学びの意欲をもたらす**

○ 学校図書館における特別支援の研究 野口武悟.(2017)

学校図書館における特別支援については、ハードルの高い研究対象という研究者の思い込みのため、調査研究があまりされてこなかった

- Q. 1 特別支援学校（知的障害）の学校図書館における
児童生徒の**情報行動**はどのようなものか
- Q. 2 特別支援学校（知的障害）の教員が捉える、
児童生徒の**学校図書館利用の促進要因**は何か
- Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、
学校図書館・公共図書館利用に必要な**支援・合理的配慮**は何か

学校図書館（知的障害特別支援学校）利用における，児童生徒の情報行動（活動レベル・参加レベル）を促進する環境要因・個人要因の調査・分析

学校図書館の利活用

主体的・対話的で
深い学び

能力を
最大限度まで発達

公共図書館の利活用

情報活用・余暇活用
生涯学習の充実

生涯学習社会への
参加・参画

適切な支援
合理的配慮

利用経験・成功体験
自己効力感

インクルーシブ教育（横軸）を 生涯学習（縦軸）へとつなげる

調査対象校

学校図書館の環境整備を行った特別支援学校（知的障害）

調査方法

校内の業務で使用しているGoogle Forms, 又は紙面（A 3, 裏表1枚）

調査時期と対象

予備調査…2022年8月～9月
教員4名

本調査……2022年10月～12月
教員135名, 内112名から回答
(回答率83.0%)

追加調査…2023年10月
教員3名

本調査回答者内訳			
所属学部	担当学年	回答者(人)	
小学部	1～3年	19	45
	4～6年	24	
	その他	2	
中学部	1～3年	32	
高等部	1～3年	35	
合計		112	

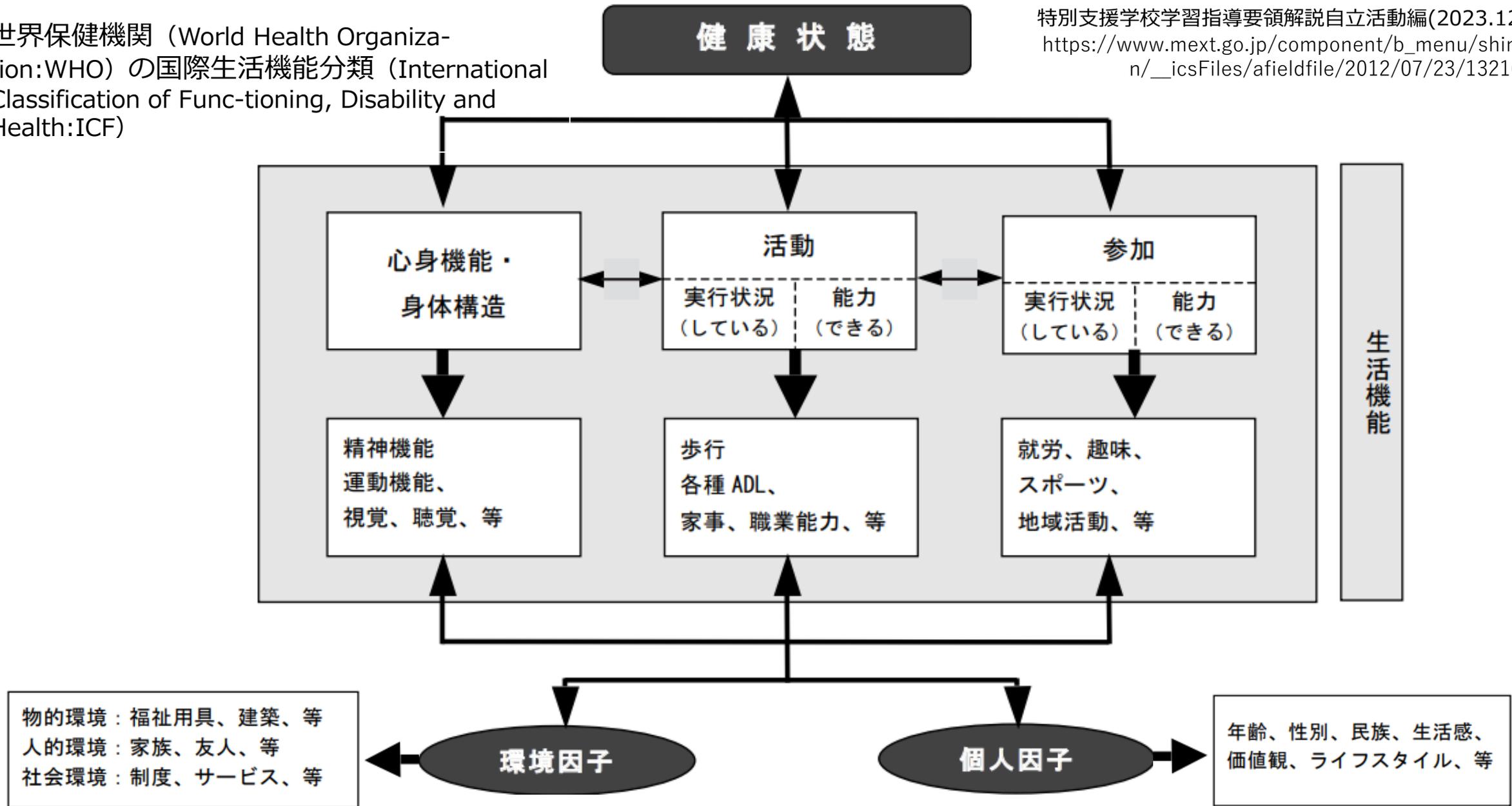
調査校の児童生徒数・学級数・1学級あたりの平均児童生徒数と回答教員数

学部	小学部		中学部		高等部		合計
	単一障害 学級	重複障害 学級	単一障害 学級	重複障害 学級	単一障害 学級	重複障害 学級	
児童生徒数（人）	105	3	86	5	128	6	333
学級数（学級）	21	1	16	3	18	3	62
1学級あたりの 平均児童生徒数 （人/学級）	5.0	3.0	5.4	1.7	7.1	2.0	5.4
回答教員数（人）	45		32		35		112

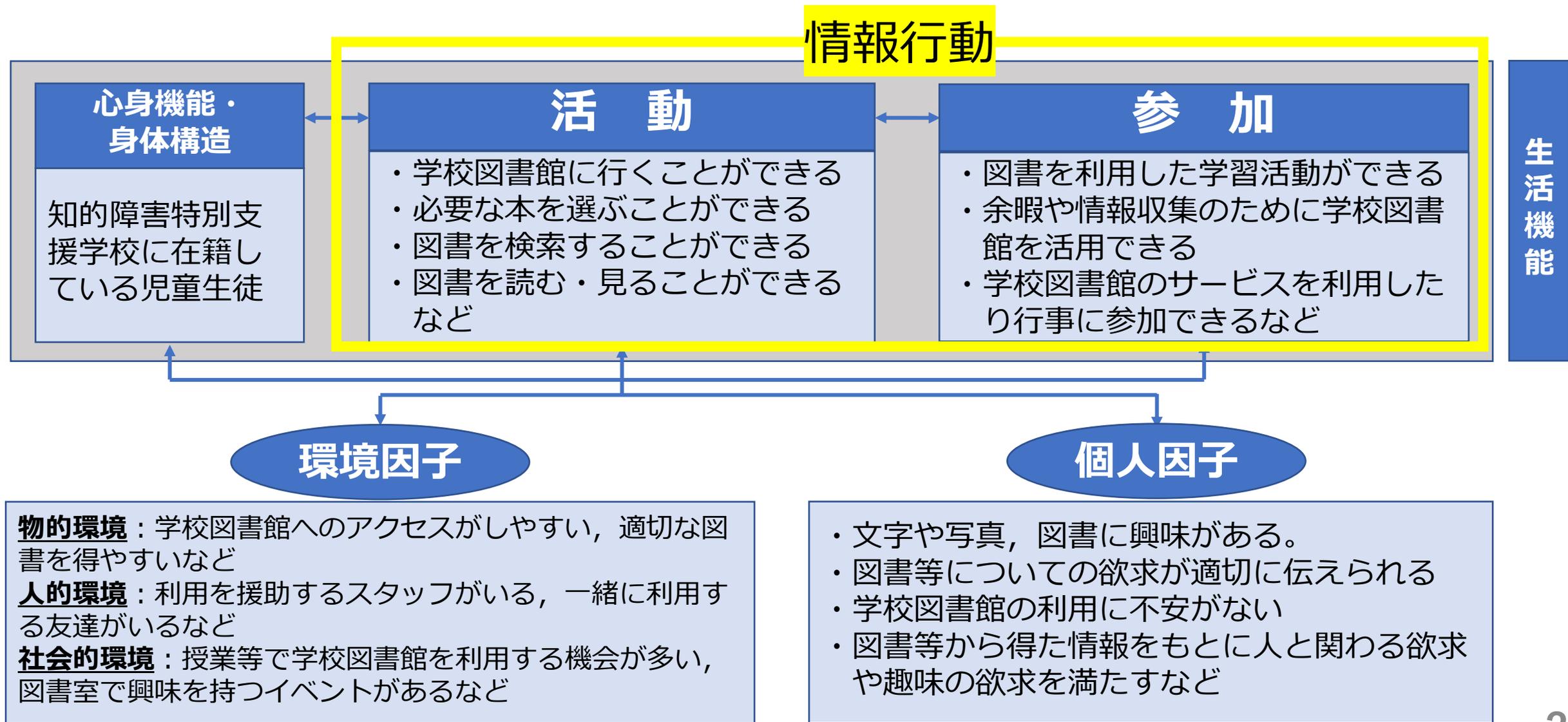
重複障害：複数の障害を併せ有する者

世界保健機関 (World Health Organization:WHO) の国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health:ICF)

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(2023.12.20取得)
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/07/23/1321673_2.pdf



ICFによる学校図書館利用の概念図 (厚生労働省大臣官房統計情報部 (編) 「生活機能分類の活用に向けて」 (文部科学省 (2009) を改変)



調査項目

活動レベル	1-1 図書室に行くこと
	1-2 本に興味をもつこと
	1-3 必要な本を選ぶこと
	1-4 本を読む又は見ること
	1-5 音のなる絵本や手触りを楽しむ絵本に興味をもつこと
	1-6 マルチメディアDAISY図書に興味をもつこと
	1-7 タブレットを使って音声検索をすること
	1-8 タブレットを使って文字入力検索をすること
	1-9 タブレットを使って読む又は見ること
参加レベル	2-1 図書室を使った授業に参加すること
	2-2 図書室で本を読んでもらうこと
	2-3 図書室で本を借りたり返したりすること
	2-4 図書室の行事（読書週間・作品募集等）に参加すること
	2-5 電子図書貸出を利用すること

環境因子	物的環境	3-1 図書室が利用しやすい位置にある
		3-2 図書室に興味をもちそうな図書がある
		3-3 図書室の分類案内は、分かりやすい
	人的環境	3-4 図書室に行きたいと言う時、対応できる教職員がいる
		3-5 図書室に行けば、対応する教職員がいる
		3-6 一緒に図書室を利用する児童生徒(友だち)がいる
	社会的環境	3-7 授業等で図書室を利用する機会が多い
		3-8 図書室の本を教室で利用する機会が多い
		3-9 興味を持つイベントがある
		3-10 休み時間等に図書室を利用する時間の余裕がある
個人因子	4-1 絵や写真に興味がある	
	4-2 文字に興味がある	
	4-3 図書や図書室に興味がある	
	4-4 図書室を利用することに不安がない	
	4-5 図書室を利用したい欲求を適切に主張できる	
	4-6 図書室の利用方法やマナーを理解している	
	4-7 図書やタブレットを使って知り得たことを、他人に話すことを好む	
	4-8 図書室を「居場所」のひとつと捉えている	

Q.1 特別支援学校（知的障害）の学校図書館における 児童生徒の**情報行動**はどのようなものか

仮説

1. A（利用が多い児童生徒）とB（利用が少ない児童生徒）では情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。
2. Aの学校図書館利用頻度と情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。
3. Bの学校図書館利用頻度と情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。

検証方法

1. 学校図書館利用頻度と情報行動（活動レベル・参加レベル）のカイ二乗検定
2. Aの学校図書館利用頻度と情報行動（活動レベル・参加レベル）のカイ二乗検定
3. Bの学校図書館利用頻度と情報行動（活動レベル・参加レベル）のカイ二乗検定

Q.1 特別支援学校（知的障害）の学校図書館における 児童生徒の**情報行動**はどのようなものか

結果

調査を行った情報行動（参加・活動）の項目は、
児童生徒の学校図書館の利用の多少によって違いがある。

考察

特に関連の可能性が高い項目

活動レベル

「本に興味をもつ」 ($\chi^2 = 40.213$)

「必要な本を選ぶ」 ($\chi^2 = 42.887$)

力を育てる

参加レベル

「図書室で本を借りたり返したりする」 ($\chi^2 = 42.772$)

「図書室の行事に参加する」 ($\chi^2 = 40.192$)

経験を積ませる

学校図書館の
利用促進へ

Q.2 学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子は、 児童生徒の学校図書館利用に影響を与えているか

仮説

A（学校図書館利用が多い児童生徒）と、B（学校図書館利用が少ない児童生徒）のそれぞれの児童生徒の情報行動は、学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子によって違いがある。

検証方法

1. 独立変数とする環境要因と個人要因について、相関分析を行い、独立変数間の相関が高くない（.7未満）ことを確認
2. 情報行動を従属変数（目的変数）、環境要因・個人要因を独立変数（説明変数）として重回帰分析（ステップワイズ法）

Q.2 学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子は、 児童生徒の学校図書館利用に影響を与えているか

結果

情報行動を促進させる
環境因子の項目数

	A	B
物的	14	16
人的	3	1
社会的	1	5

- ① ABの情報行動(14項目)を促進させる環境因子の項目は、物的・人的・社会的の内、**物的な環境因子が多い**。(右表)
- ② 個人因子については、ABに関わらず「**利用方法やマナーを理解していること**」が情報行動の多くの項目(10項目)を促進させる。
- ③ 「図書室を利用する機会が多い」「図書室の本を教室で利用する機会が多い」と、タブレットや電子図書に関する情報行動には**負の相関**がある。

Q.2 学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子は、 児童生徒の学校図書館利用に影響を与えているか

考察

(1) 「図書室の分類案内は、分かりやすい」
情報行動(A7項目, B10項目)を促進

⇒司書教諭と学校司書が協調することが、
児童生徒の情報行動を促進する分類案内となる。

調査校
では…

利用の実態に詳しい
司書教諭

図書整理の実務に
適した分類を知る
学校司書

協調して
検討

分類
決定



Q.2 学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子は、 児童生徒の学校図書館利用に影響を与えているか

考察

- (2) 「利用方法やマナーを理解している」情報行動(A10項目, B11項目)を促進
・ 経験を積むことが、理解につながるのでは…

⇒**将来公共図書館の利用につなげるために、学校図書館を活用することが望ましい。**

- (3) 「図書やタブレットを使って知り得たことを、他人に話すことを好む」
情報行動(A5項目)を促進

①学校図書館「**情報センター**」機能

…自分の考えをまとめて**発表**，学習の成果物などを蓄積し活用

②特別支援学校の学級の定数上限は8名，学校図書館は学部や学級を越えて利用

③調査校では，作品展示表彰や様々な感想の掲示等の取組

⇒**コミュニケーション能力を育成する場となる。**

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

仮説

特別支援学校（知的障害）の教員は、学校図書館利活用と公共図書館利活用において、インクルーシブ教育と生涯学習の視点を持って支援や合理的配慮を選択している。

検証方法

アンケートの自由記述項目について、M-GTA(実践的質的研究法)により概念を整理し、各概念の定義と理論的メモを作成する。

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

1. あるとよい学校図書館のサービス
2. あるとよい公共図書館のサービス
3. 図書館利用のための環境調整や合理的配慮
4. 図書館利用のための個人因子への支援
5. タブレットを活用した電子図書利用のための、環境因子に対する支援
6. タブレットを活用した電子図書利用のための、個人因子に対する支援

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

結果と考察

(1) 読み聞かせを含むイベントが有効

- ・ 学校図書館サービス 回答68名, 内読み聞かせ29名, その他の取組17名
- ・ 公共図書館サービス 回答61名, 内読み聞かせ18名, その他のイベント24名
- ・ 声が出る, じっとできない等の特性に対し, 無理なく参加できる読み聞かせや読書に関するイベントの企画があるとよい。

⇒知的障害者本人, 一緒に利用している支援者や家族が, 障害の特性により
居心地が悪い思いをせず, 安心して楽しめる企画

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

結果と考察

(2) 特性に応じた蔵書の整備や環境への配慮

- ・ 学校図書館サービス 回答68名, 内15名
- ・ 公共図書館サービス 回答61名, 内13名
- ・ 障害者自身が求める, 適度な興味関心が向かう図書資料の整備
- ・ 安心して落ち着いて過ごせる空間, 利用しやすい工夫
(導線の色分け, 音声案内, 相談できる人)

- ⇒
- ・ **児童生徒や教員の希望図書の整備**
 - ・ **図書資料の破損汚損の対策**

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える、知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

結果と考察

(3) 児童生徒の経験の積み重ね

- ・ 図書館利用のための環境調整や合理的配慮 回答58名, 内12名
- ・ 個人因子への支援 回答48名, 内16名

⇒ ・ スモールステップと成功体験

・ 担任と学校司書の信頼関係の構築

・ 学校司書の「見守り（付かず離れず、笑顔）」の姿勢

(4) 電子図書利用には課題

- ・ タブレットの課題, 児童生徒の課題, 指導する側の課題と課題の記述が多い。

⇒ ・ 感覚的な操作

・ 読むこと, 選ぶことの負担軽減

Q.1 特別支援学校（知的障害）の学校図書館における 児童生徒の**情報行動**はどのようなものか

仮説

1. A（利用が多い児童生徒）とB（利用が少ない児童生徒）では情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。
2. Aの学校図書館利用頻度と情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。
3. Bの学校図書館利用頻度と情報行動（活動・参加レベル）に違いがある。

結果

- 1.の仮説は支持された。
- 2.の仮説は棄却された。
- 3.の仮説は一部支持された。

Q.2

学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子は、
児童生徒の学校図書館利用に影響を与えているか

仮説

A（学校図書館利用が多い児童生徒）と、B（学校図書館利用が少ない児童生徒）のそれぞれの児童生徒の情報行動は、学校図書館の環境因子と児童生徒の個人因子によって違いがある。

結果 仮説は支持された。

Q.3 特別支援学校（知的障害）の教員が考える，知的障害者の
学校・公共図書館利用促進に必要な支援・合理的配慮はどのようなものか

仮説

特別支援学校（知的障害）の教員は，学校図書館利活用と公共図書館利活用において，インクルーシブ教育と生涯学習の視点を持って支援や合理的配慮を選択している。

結果 仮説は支持された。

学校図書館の充実について

1. 図書室に行くこと あまりできない, できない児童生徒が A5.1%, B42.0%

- ・ 移動, 時間, 人的支援, 興味・関心, コミュニケーションの課題
- ・ 教員が借りた図書を教室で利用している場合もある

- ⇒
- ・ 学校図書館利用, 公共図書館から借りた本を利用して**楽しむ経験の積み重ね**
 - ・ 特別支援教育の知識を持った**学校司書の常駐, 担任との連携**
 - ・ 必要な支援, 合理的配慮がされた**図書館整備 (電子図書を含む)**

学校図書館の充実について

2. 学校図書館の利用を進めるために ～大切なこと～

利用が多い児童生徒の肯定的回答が85%を超えた項目

活動レベル⇒力を育てる

- 本を読む又は見る
- 図書室に行く
- 本に興味をもつ
- 必要な本を選ぶ
- 音のなる絵本や手触りを楽しむ
- 絵本に興味をもつ

参加レベル⇒経験を積ませる

- 図書室で本を読んでもらう
- 図書室を使った授業に参加する
- 図書室で本を借りたり返したりする

環境因子⇒整える

- 図書室に興味をもちそうな図書がある
- 図書室の分類案内は、分かりやすい
- 図書室に行けば、対応する教職員がいる
- 図書室が利用しやすい位置にある

個人因子⇒支援・配慮

- 絵や写真に興味がある
- 図書室を利用することに不安がない
- 図書や図書室に興味がある

学校図書館の充実について

3. 特別支援学校図書館の活用 ～児童生徒の成長を促す場～

利用の多少により肯定的回答と否定的回答の差が大きかった項目（40%以上）

必要な本を選ぶ

肯定的回答 A:88.6%, B : 44.5%

図書室で本を借りたり返したりする

肯定的回答 A:93.8%, B : 52.0%

図書やタブレットを使って知り得たことを、他人に話すことを好む

肯定的回答 A:64.0%, B : 15.2%

学校図書館の充実について

4. 学校司書について

- ・ **学校司書の専門性**等がより発揮できるよう（中略） **人的整備の拡充**を図るようお願いします。
なお**特別支援学校**においては、読書バリアリー法の成立などを踏まえて**配置拡充**に努めるよう
お願いします。
文部科学省 第6次学校図書館図書整備等5か年計画(2022)
- ・ 特別支援学校教員は、図書館利活用において、特別な支援や合理的配慮を選択している。(検証Q.3)
- ・ 図書室に行くことが「あまりできない」、「できない」児童生徒(A5.1%, B42.0%)がいる。

⇒必要な研修

- ・ **学校図書館について**
- ・ **加えて、特別支援教育について**
- ・ **加えて、アクセシブルな電子図書利用のため、ICTを活用した読書活動について**

学校図書館の充実について

5. 電子図書（電子書籍）について

- ・利用の多少と「本に興味をもつ」「必要な本を選ぶ」は関連がある（検証Q.1）
- ・「図書室を利用する機会が多い」「図書室の本を教室で利用する機会が多い」と、タブレットや電子図書に関する情報行動には負の相関がある（検証Q.2）
- ・タブレットを活用した読書活動は進んでいない（検証Q.3）

⇒ ・ **感覚的に操作できるツール**（本に興味をもつ，必要な本を選ぶ）

・ 潜在的需要の掘り起こし

本に興味をもつため

- ・ 表紙が見える
- ・ テーマ，対象年齢，読みへの支援をイラストやピクトグラムで表示

必要な本を選ぶため

- ・ 選択時に，表紙・対象年齢・読みへの支援（振り仮名，読み上げ機能等）が表示
- ・ 選択時に，選択肢の数を制限可能に（選択時の負担減）
- ・ 個人情報保護が配慮された上で，パーソナライズされたおすすめ図書の紹介サービス

公共図書館の利用につなげるために～公共図書館にあるとよいサービス・行事～

- ① 読み聞かせ以外のイベント ←特性があっても楽しめる
- ② 読み聞かせ ←定期的, 興味を持ちやすく工夫された
- ③ 特性への配慮
 - 寛容な空間: 障害の特性 (声や動作) を受け入れてくれる
 - 図書の推薦: 興味・関心や実態に沿ったパーソナライズ
 - レイアウト: イラスト, ピクトグラム, 色分け
- ④ 人的支援 ←利用・貸出への支援, 付き添い人への配慮
- ⑤ 移動支援 ←貸出図書の配達, 移動図書館
- ⑥ 情報提供 ←利用できるサービス内容が障害者に届く

⇒ ・ **特別支援学校図書館の整備と活用促進**

・ **公共図書館と特別支援学校の情報共有を含めた連携**

知的障害者の健康医療情報アクセスにおけるバリア、ニーズ、図書館への要望

バリア	視認性が高い読みやすくわかりやすい書籍や新聞が少ない
ニーズ	フリガナだけでなくレイアウトや文章の読みやすさに配慮した文書 やり取りをわかりやすくするための意思表示カードの利用 医療専門用語のわかりやすい解説や情報提供 当事者の意見を聞きながらより良い資料を作り普及させる 読書だけでなく、居場所、DVD映像資料など幅広いニーズがある
図書館への 要望	わかりやすい図書館利用案内を作り、利用のハードルを下げる わかりやすい健康医療書籍を知的障害のある利用者に届ける 自分でニーズを表現することが困難な知的障害者のニーズを拾う 調べたりまとめたりすることが困難なので図書館員による支援を提供する 図書館に意思表示カードを備える 知的障害者への合理的配慮を踏まえた誰にも開かれた図書館にする

学校図書館（知的障害特別支援学校）利用における，児童生徒の情報行動（活動レベル・参加レベル）を促進する環境要因・個人要因の調査・分析

学校図書館の利活用

主体的・対話的で
深い学び

能力を
最大限度まで発達

インクルーシブ教育（横軸）を 生涯学習（縦軸）へとつなげる

適切な支援
合理的配慮

利用経験・成功体験
自己効力感

公共図書館の利活用

情報活用・余暇活用
生涯学習の充実

生涯学習社会への
参加・参画

学校図書館（知的障害特別支援学校）利用における，児童生徒の情報行動（活動レベル・参加レベル）を促進する環境要因・個人要因の調査・分析

学校図書館の利活用

主体的・対話的で
深い学び

能力を
最大限度まで発達

公共図書館の利活用

情報活用・余暇活用
生涯学習の充実

生涯学習社会への
参加・参画

適切な支援
合理的配慮

利用経験・成功体験
自己効力感

研究成果のアウトリーチ

インクルーシブ教育（横軸）

生涯学習（縦軸）へとつなげる

障害者とその家族が安心して情報を得られる場に

謝辞

お忙しい中調査にご協力いただきました、広島県立福山北特別支援学校長を始め教職員の皆様方に、心より感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

【引用文献】

(1) 文部科学省「第6次『学校図書館図書整備等5か年計画』概要資料（令和4年度から令和8年度）」2022, p.5.

https://www.mext.go.jp/content/20220125-mxt_chisui01000020025-01.pdf, (参照2024-03-10)

(2) 文部科学省「令和2年度『学校図書館の現状に関する調査』結果について（概要）」2020, p.5,p.8.

https://www.mext.go.jp/content/20220124-mxt_chisui01-000016869-1.pdf, (参照2023-11-16)

(3) 日本図書館協会学校図書館部会「学校図書館における特別なサービスと資料の提供に関する基本方針（案）-図書館利用に困難のある児童生徒のために-」2020, p.7.

https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/bukai/学校図書館部会/学校図書館における特別なサービス_基本方針全文.pdf, (参照2023-11-16)

(4) 野口武悟「第2章 調査結果の要説」『公共図書館における障害者サービスに関する調査研究：図書館調査研究リポート』no.17, 国立国会図書館,2018, p.10.

https://current.ndl.go.jp/wp-content/uploads/mig/report/no17/lis_rr_17.pdf, (参照2023-11-16)

(5) 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」2022, p.4,p.6.

https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubet-su_shien/event/senshu/___icsFiles/afieldfile/2023/02/22/2022monbu.pdf, (参照2023-11-16)

(6) 桑原愛実ほか「障害福祉サービス事業所の職員が考える利用者に知的障害特別支援学校で身に付けてほしい力-心理学的統計解析を用いて-」『東京学芸大学紀要, 総合教育科学系 I』第70集,2019, p.380.

(7) 藤澤和子・野口武悟「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方 全国の知的障害者とその家族を対象とした利用実態とニーズ調査を通して」『現代の図書館』vol.58,no.3,2020, p.146.

(8) 前田千歳・大伴潔「特別支援学校（知的障害）における学校図書館に関する実態調査と児童生徒の将来を見通した活用の検討：東京都・神奈川県・埼玉県を対象として」『東京学芸大学教育実践研究』第16集, 2020, p.21.

(9) 大貫麻美ほか「特別支援学校（知的障害）における算数を核とした学びの連続性に関する事例的検討：学校図書館を活用した『数』概念の構築. 保育・教育の実践と研究」『白百合女子大学初等教育学科紀要』第6号,2021, p.25.

(10) 須藤崇夫・平久江裕司「情報センターとしての学校図書館の現状と課題—高等学校図書館を中心に,その将来展望—」『情報メディア研究』19（1）,2020, p.61.

(11) 三輪眞木子・磯部ゆき江「第4章 公共図書館における電子書籍サービスの動向」日本図書館情報学会研究委員会編『電子書籍と電子ジャーナル』（わかる！図書館情報学シリーズ第1巻）勉誠出版,2014, p.85.

(12) 野口武悟「第9章 学校図書館における特別支援に関する研究をめぐって」日本図書館情報学会編『学校図書館への研究アプローチ』（わかる！図書館情報学シリーズ第4巻）勉誠出版, 2017, p.156.

(13) 広島県教育委員会「令和4度公立学校基本数」,令和4年5月1日現在.

(14) 文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月」2018, p.13.

(15) 三輪眞木子ほか「我が国の公共図書館における障害者への健康医療情報提供サービスの展望」『現代の図書館』vol.61,no.1,2023, p.47.